

..... 編集後記

◆ 今月号は地質調査所名で編集する最後の号になります。4月から「地質ニュース」の名前が変わるわけではありませんが、新たな出発でもありますので、小玉所長から出発の弁を述べていただきました。

◆ 4月からスタートする独立行政法人産業技術総合研究所で、地質調査所はどのような姿に変わって行くのか、それを解説するための特集記事を掲載いたしました。本誌も、これまで地質調査所による編集が行われておりましたが、それを終了し、今後は出版社による編集に対し協力することで係わりをもつことになります。4月からの組織替えて、私、湯浅は編集の責任者を降りることになりました。一昨年の4月号からの2年間はあっという間に過ぎてしまい、心残りもごさいますが、4月からの新たな仕事でも力を尽くすつもりであります。これは最後の編集後記になります。これまで各号の中味の紹介のついでに、結構勝手なことも書かせていただいたように思います。お見苦しい点もあったことでしょう。おつき合い下さいましてありがとうございました。

◆ 本誌には巻頭エッセイというページがあります。所長、次長をはじめ、各部の部長さん方にご執筆いただくことが多かったのですが、時には若手のアクティブな研究者にもお願いし、地質調査所、地球科学あるいは研究というようなキーワードでまとめていただきました。これに対して編集後記は、どちらかという自分勝手な巻末エッセイのような感じで書いておりました。文章というものは、通常、読み手を想定して書きます。極々若い高校生の頃の話ですが、私の場合、実は日記も読み手を想定して書いていました。編集後記についても同じことで、

読者の皆さんに対してという以外に、その時々で具体的な顔を思い浮かべて書くこともありました。そういう意味では、やはりこのページを失うことは名残惜しい思いがあります。

◆ 今月号では地殻物理部編集委員の大熊さんに取りまとめていただいた、ミニ特集「イタリアの火山調査」をお届けします。イタリアの火山を舞台にオーストリア地質調査所と行った共同研究の報告です。研究概要の解説とともに重力調査の様子、火山地質調査の様子が現地の紹介をまじえて報告されています。表紙、グラビアの写真とともにお楽しみ下さい。

◆ 地質標本館だよりNo.57は、昨夏行われた夏休み特別展示と地球なんでも相談日の紹介です。地質標本館は独立行政法人化しても唯一名称が変わらない組織です。法人に移行しても夏休みの行事は続きますのでお楽しみに。

◆ 最後のページになってしまいましたが、地質標本館の試料調製課が人事院総裁賞を受賞しました。その記事を標本館からいただきました。記事を拝見し、私も当時の特殊技術課におられた沢山の先輩の皆様のお顔を思い浮かべました。本当におめでとございました。

◆ 「20世紀最後の」という形容詞が、実はほとんど大した実体的な変動を伴わなかったのとは異なり、地質調査所から産業技術総合研究所への移行は、大変に大きな変化を伴います。それでも、地質ニュースの誌面は淡々とページが進む、そんな雰囲気の流れしております。大変変化を解説するような、気の効いた特集ができなかった言い訳ですね。
(湯浅真人)

地質ニュース編集委員会

委員長：湯浅真人
副委員長：石井武政
委員：星住英夫・飯笹幸吉・七山 太・佐々木宗建
佐藤興平・大熊茂雄・前川竜男・木下泰正・
中野 司・遠藤祐二
事務局：総務部業務課広報係（渡辺光次・河村幸男）
〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-3
地質調査所 地質ニュース編集委員会
事務局 Tel. 0298-61-3520
Fax. 0298-61-3569

地質ニュース	第559号	2001年	3月号
	定価¥785 (本体価格¥748)	〒実費	
2001年3月1日	発行		
編集	産業技術総合研究所	地質調査所	
発行人	株式会社	実業公報社	
	代表者	林 光生	
発行所	株式会社	実業公報社	
	東京都千代田区九段北1の7の8	〒102-0073	
	Tel. (03) 3265-0951 (代表)		
	Fax. (03) 3265-0952		
	振替口座 00110-6-32466		
	麹町局私書箱第21号		
印刷	株式会社	エアフォルク	

© 2001 Geological Survey of Japan
●本誌は東京都の霞ヶ関政府刊行物サービスセンター
およびつくば市の友朋堂書店本店に常備してあります。
また、最寄りの書店でも注文できます。

地質ニュースに関するご意見は編集委員会へ